



WA 8
5
3

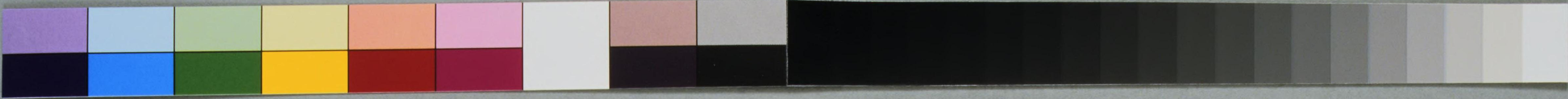
館 書 圖 京 東				
四	五	三	別	和
冊	〇	架	函	書
	號		類	門
			小	類

鴉鷺合戦物語
三

鴉鷺合戦物語 WA 8-5 03-001

国立国会図書館





鴉鷺合戦物語 巻三

一好成軍子合九月五日合戦終結後在りけ
わづらひの事

後周様ゆへあんのまゝ二身にまぢんと伏せ
し大島の天狗ゆり東市郷村あけとわと
まじりしうせのりゆり大おぶささきひあふ
ふりあふとひか持は揚定亮のいんとの
かきとこ夏影木之の光のりやまかたわくま
あけ序のしわらふといひとり和歌をうたふ
あけ序のしわらふといひとり和歌をうたふ



鴉鷺合戦物語目録卷之三

故柳原家蔵

柳原家蔵

一、あふ軍子合九月六日合戦鴉鷺追善蓮け
わんさの事



祇園林あな乃とく二身によせんと俄定
大子の大政ゆけ東市作共給あなとらと
りよりせのり時より大和おまきさひめ山
判官長属とひお羽法協定光うのりんとあ
うきとこ夏集本二乃乞のりやもみくはく本
後次高のわこらとひとり平内者る長妻和
書目たらちありしとさ記としそ

一万余騎也あも少はとわとさきまりのちりせ
り登るり一は葡萄園大の祖と書て一撥乃
あひあるり一は志てをつけとわそ進る里
ししてやあえとりてゆふつけきとりひけん
くくめなれ大御もは鶴を渡射仲妻婿子次郎
有妻同三郎季妻とこ共湯射ゆさくう尚と
里平又郎妻季終とり源又郎まれよ志とく小
吉く高きり是木をさ記とくそ孫三子余騎
くらくら登伏く川成あはれまの報をこめて
そ中へらる中鴨あは相乃具ひくくとして
おつりくわ大子大娘山城守正素ちやみ七良

ゆきまよはれくもくまよあ成鷺伝信乃書け
高鶴城守高な成とく中鴨中冬鶴刑部丞
年まけかもめひくら先生をく位あち村少次
帝救つて成免として共撥二子余騎くくして
あは鶴乃紀伊守長合又位せうるわとよあき
泳泳く秋澤をいふ高仲妻うつら九良ひら
仍雲雀之良高なり驚少捕りくくんとさ記と
ししてを撥又百余騎さてハウら成志野中一也
くくすくくくして二口するりして位信の書む
孫とのなれとのなれ城一し流置たり野中一
乃大将と成崔者太極く記ふと人かたの服

風情してうりそくろひてひく人うろふが城
そくくハ用白庭表連るんとくりたりともを
不足ハあ〜とぞ思ひこりきりさうりやと小
よせてうりさつさつわ海水ふらなまはた大平ハ
田原北橋を打目こりて家格をのがりて一書
雲海乃さえ北津乃まんとて三より一りけて
かうの大和守大將とてさすのと後里に一
年山判官神交ののと後りて一と大將東
市作中一鴨の通里よひえさうりさつめてハ梨
田は小うりやと法務寺畷崎吉田乃馬場とい
ね井へびうひて高島とともりか人よとてその

しつと申一鴨の志んよ打表さつわ比ハ九月上
旬なまはいるとと日さうり秋風をよるひの袖
をひらうりし雲海りひりふりまつまをり
あとのさうりや照らんみ夢乃交る初てめて
ほ一とんのえん枕きまんととる時大さうり
めてうりよせて一交りてとさいとほくは穢小
も時をあそせうり申一ゆえゆれさうりの森時
乃とらせり一門北時の一とハ三あさり田志
まりハとあまそそ雲さうり山がくもりまが
とあり〜とらまは水もあまなり〜とりてと記
め人あ〜とらまがえ〜と河〜とくひ夫さけむ



乃夢抄ひくくよせての大將将黒糸の
大大黒付黒なる同けのくふとに黒黒付付り
此石刃ともきくろのりくうれそろ毛毛はけ
くろ矢乃は十二さくろ城抄ひてくろねり
の引引を指てくろさくろのめとくたくまき
ふびとんのくくをむひてくろあわくひけ
てそのわくわけりあふみけそろへはくろあ
くろ大抄んあげてけふ乃大大きう東市東市作作採採の
まきらくろあまはあり山城山城当当敷敷をりくろふそ
こひやうる建建た矢一一月月まのくろせんはきせふ
がとくあされよとて十二さくろ代代とて採採た

す記せめてくますともてふとくみねの山城
当当の吹吹り人人くこれうりあしてうう採採りひ
くろあろあ乃乃まけまばばいひやうくろあ淨淨入
ひいさりきりあまもこひやうる建建ともはか
るくPさんとて十三さくろあせひりてかつ
てけか川川海海さくろくゆびけの神神作作とと紙紙つ
てううろりひくろくひのは橋橋定定免免くむ
まひつつけくけきと紙紙せと罪罪く里里はくろ海
くろ海海よまきり志志やうや福福んん十三くくと乃か
りくろあてまのく紙紙とくめてくせよかりくろも
ふつまいてひえあくあよ場場あまた持持てちご



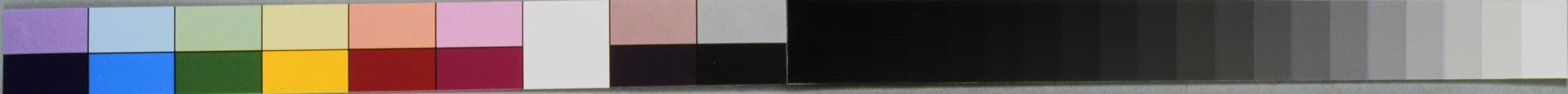
同宿小一しはうましは陣のまればをそのひ
さんゆよとそまのひをら愛り城おしわさ
うひやうのほきさるるをあるを二三てう
ねけてまさらあからしきま人日りうあぬ
りておめに忍まば根ハ鏝のよくなるまの志
たよそあるのふくぐいの羽とくおかりきと
はけしうらをよまきりて十日そくしりあま
まら鶴越校守生年十二と書らとさあられ
まらやほらるりまさらあからしきま山を
あがけかつ矢拍をけぼくと死しけらま
程小あまわけりおをまのしりあくらふ

見しはくおたらむさくひなと乃一類乃りふ
やうおれた我おがかりさぬ見くらく目も
とハとふくくして款の目くひきとるるを
一撥の穿み百誘けくわおめひてうけしり見
あくらふれ本之乞のりやまをぬあう見くはく
ねえじさくひおとのりけくしてけけく
く城方あれおまごお事なまは境ふうひそひ
てうぬるてはくろをそくるまはけくことこ
とを馬乃りあひごあまあせくして君の毛
を少うひてあまお張さし合くしてけと張



分^び成^る志^とは^なむ^やり^もて^招敵^しる^武志^とを
あ^てつ^けと^うて^りて^りと^くは^くこの^うり^目小
て^りや^ら上^に死^重なる^報い^らさ^るれ^ハさ^らに
敵^ハう^さる^も校^ぢん^ハあ^らじ^きや^うの
は^らと^の二^三百^騎一^をと^りす^うと^しり
り^報も^やの^くと^的の^ハ敵^未方^さい^り
小^忍て^よせ^てこ^をい^つ小^くと^さと^たた
ち^て馬^のさ^をと^ハ志^とは^りる^わぬ^山城^守
手^勢百^騎ひ^くり^かこ^をみ^くい^と
く^敵を^まり^まは^るか^うけ^やあり^てと^は成^分
少^はあ^まり^れ大^勢り^ハ勇^士れ^あら^はい^も
備^さま^そ言^名の^曲も^あり^ます^この^勢や

そ^ハ相^あひ^しそ^よな^れと^て七^帝次^帝城^左太
乃^はは^らふ^とく^みて^よせ^てれ^大將^東市^作殿
を^りく^あぞ^うり^ハ山^城の^守正^素方^わ日
比^乃志^んそ^いま^しそ^たう^ひり^見ゆ^んけ
れ^と大^勢あ^げて^大櫃^のひ^えう^り二^子余^騎う
申^へふ^百余^騎と^りる^りけ^入勢^勢
是^と忍^てう^まり^やま^てま^ける^りけ^入同^よ
う^らん^と相^もひ^り山^城の^守殿^うと^りな^り
べ^て務^員せん^とり^山城^守左^太を^よめ
と^そ父^子三^騎百^余騎^備さ^りす^み目^小



良ハむなりこのもろきけつせ次良者久いお
 浅いさせくわけりそめて忍くわ軍兵も
 大鷲うまき手拵あてた刀を杖りつき或ハ
 うろのあま小かへはるらとひまう人里あ
 時一と約日與く款乃市ハ返しゆく忍くぬ
 不^まあ浅さき伝^うの當あ手三百騎りり
 うられ此乃もささくせくをめひて入り人
 里共^ま大着^ああけて款ハ小拵^あわ一まとあま
 守なと下^う知^れれともく^うの^はし^えの^小
 て大拵^あとりこむも六^あ打^あやあまてらつと
 與く大^あら大^あきさる^あとてるとをぬしとを
 かてきり^あら日^あ里^あふうり^あまし^あきり^あ日^あらん
 とらん^あら^あの^あきを^あひ^あを^あり^あみ^あん^あう^あが^あ術^あと
 けく^あて^あ拵^あを^あり^あれ^あ子^あ城^あか^あ人^あ里^あ見^あた^あひ^あ
 め^あ此^あ着^あハ^あり^あも^あろ^あう^あ見^ある^あり^あの^あ天^あり^あ勤^あと^あ
 とく^あつ^あり^あま^あの^あけ^あを^あん^あら^あう^あ此^あ雲^あ小^あけ^あ
 とろ^あは^あ似^あか^あ多^あ拵^あと^あけ^あと^あも^あ伝^あの^あ當^あ小^あけ^あ
 や^あふ^あら^あれ^あて^ああ^あり^あ返^あら^ある^あ義^あの^あし^あく
 に^ああ^あり^あ小^あ百^あ騎^あこ^あは^あ二^あ百^あ騎^あひ^あら^ある^あ
 て^あひ^あら^ある^あ所^あと^あ又^あ十^あ百^あ小^あけ^あや^ああ^あつ^あて^あん
 ち^あん^あへ^あは^ある^あけ^あも^あと^あて^あ見^あま^あは^あみ^あら^あ二^あ百
 騎^あと^あかり^あり^ああ^あわ^あて^あた^あう^あひ^あら^ある^あと^あつき^あに



けりしめてゆえうらありし合戦
まりぬ川ふくして款こそ人さるりな
とあり言つてうひ登伏けりさけりわたり
の紀伊守は大事もんけんことを今
と款もも日こそとゆへんして大急のい
らさのていと云んと申し鴨小ぢねと
去き泳ぎつりひうひる記めんくうみ治
元慶乃合戦ゆけり治川をたぬを渡せ
後つり小急をたぬの小急水おとりとも
りくわたり事ありあつたき河渡しおま
あつらふるに際へまのりすりななどよそり

けりし時り雲雀の良又すくみおてうり中志
ハやうくを三月の苑より名をよそり
ひりり三急を原乃高るわ矢一つまのりせん
とそハきくニふせよひりてけかつりうと
べの小急うりて此志ありりくは満きせ
めてうらうらとあつた急名り志ありひ
もりり子やとそ一が小急とぞ日とひけり
鳩大急言つてうひハ急やくるわとて
まうひりりちやく二急を急回三急急急
み三急を急回二百余急川小急と急入り
急急を急回みさこ急急急急急急急急急



せいぬ百騎さうり我おとさうりとうり入ね
ととむ海ゆたふぬわ一騎もさうまはが
ともさくうらありはさきいのうに返さ記ふ
とくみくうくまを歌ハるふらう還さるびを
志むらるさく具足をかきたりひかどむと
とけりやとかわたれとさうとの大せいさん
くうりけちうされてうにゆくの敷を
あふのまい乃うさとうりふれ大さきさか
録ハううてをたよりありさうりハをく
たうさ里くせもさくあふ返さ返り捨てう
とのちらふらひの神としりえすうりけち
くさままもこのくそくよあふふ所の物二

りあふらとゆふりさうりとしらふ
そのさかひハ詠詠の風う楽と返りてた本
とさ記しふとあふら記伊守ハうちゆき
しそみく一雨小うりよせさ門くくと川を
海一と轆轤へうちあけてひくう風怪
利ひと田村を鬼王をかこりあうとさ
かくやとぞ驚くうらまは小大のゆきさ
てきみくこまひ死さうらうてそん
まん志やう乃との敷をあらたうひのゆ
さうけもせはれまもせとよせてとらとひさ

をこゝめとてはのめりたりてひえたり
あなとりのと記まりせれいとくこのは
まの合戦いふか款の利と忍くはあまじと
みくこれそんならハキその日終ふま
て款とくまのの勢士して思やうりけひ
きすうとのまりる代このてりてそく款り
けいしそ一味よあはをけくみくまかそく
まーま相とされも小撥乃大撥小らわらめら
まそいををらりまーきりて大せいのり
やうの不そくよるわたうをりてりまそ
をう月とあまのいふやかきんとりよまのり

りのハ尺くられるいの大なり央あんのとく小
川風小ふうせて二子余勝らさ記りあけて
すくえたり城方あは山城守父子三勝あは鷺
伝伝の当けあう鶴城校の当高直を播八百
勝城めいてく高直その日乃志やうぞく小
ま白糸乃大よりひり十此一ちやう乃祥り
あき此大なり霧山とおへあうしとくふけ
あくらめて白あ毛の馬白そりのとくなる
りりのりて六尺あまりれ右刀ま月うり
さーかさーてらうらう中めえとくみて見
えうらほくをけをまの雅くそとら中お



助とさ乃きうぶせううもめしては先先生味
村小次郎をさりとてその勢一子余孫なり
あゝ小佐治のおよせそのふれえを厚うを見
て大驚あけていゝてきの手してと見ゆ
ありりのあましくおぼりあはけひて
一庵をそらあか左太一目をくりりて
うけはく海海かかと下知して急ぎけもさく
大勢一うけあませゆんでふあひつけめて
あぞひく説ハ多務るれともこたゆる所と
うけるそそあるのうらゝのりさるハ井の
うらゝ二寸ありうらゝあまき名も也説るさか

七寸ハ寸の大勢ともよまつてめれ下に
下てきまけうらふりて海うとうとせ
説のうひちらさそりちるまをさうて落とり
かしてうらゝあまこみてハさうに
切あまを記まとも進退をりり軍兵と
たらあさとまことに一騎あま乃勇士のあ
はうひとあまこらあはと記とりとせ
いああまをさうととれととととととと
ととととととととととととととととと
ひまこあまうふらひをらととととととと
戦鶴鐵板書大くきくとり持とととととと



て母とと小ひふ強を備えかわけらるる事
の序をその二三十けりわ切くそのちか
大和守とつ孫てくい越及守あまはあり
かう大和守ありくあそさも目比武勇小
をさしとさるし七雲しそし高直がま
るま見ようち死れてきあけ不くるま
はわとてハてく乃まのハ押さるるてあ
らハくそとて八百余騎りてひく
へくけ入く大和守りしとるるへてさ
うてうせ小たりを志くい認りありしと
らうとう三費文に申うけてゆいらん

小毛を以僧小をまつり初のけうやう孫
あろりささしけりときん山城七郎ハ
戦りさせゆりしめて大つらねさりちてよ
あご家まのあしハ器をも金とを打とまさん
とき陸を海より移してよびがふ者なり
りくらし越越ひりりりりるふとのか
おらんとねりありしといき平内と名
のりてうりうめと飯しとりふてりふて
ころつた海におよて云く連るるを山城七
郎殿と思しよわ女はたね初そうて飯をり
さしそねりらめ是越るふしり手ふけ

やさんとして曰尺あまは里乃るまいるこ水くらま
りまりー急あやうをうくわら心城七帝を
のも六下^カ穿乃^カ穿乃^カ也右刀よこしーとけ
思くともふらひらううぎんかさんとして大た
ちをなめて目さわあふしといまなさるまを
どろとわる城ーうらうふやんへて持
しる具なまはえをあきあるこを城連くらけよ
とあてさうしーして居れい具是りーあまりて
まもとにーてよあをくらまはとひらまてこ
もき城まーしてちやうとう門まのわう太刀
付しーて目けかをさうひてむかひいふ日里

けくまはう記男のをそのまー扱やびまー
こよあう祿とも二ねをてりーなりて少一小
きり款^カ海^カ務^カるう祿ともまよき志^カ子^カ勝^カけいわう
と建てををひわつとあうされも其^カ懸^カけよの
合^カ戦^カハみうこまけいんさうりーありぬまの祿^カ
とひげやうひいそさう祿我さ記ふとひく
かとりーをくひやう祿りーわらさてら建て
太刀かなさるこを控^カてあけをぬえ九月六日
ひげーの刻^カよいんささるまをそにたりうふひ
日らきまのたさるまはねをそく乃日こうこ
ふうこひう務うまくに首^カ祿^カ備^カわて愛うーこ



ふくけのひて又軍あつハようめをくらう
く思ふころあつ小きうひしきあまそつ
りのき時をいつなる山とをさうし里川とをさ
うりあまじあちをもうめとをさう武勇の乃を
そなくむゆをおさるるにしくもうひこく
まや志や風神とのまこのみく人ありてハこ
しをありまんとてハ口とをさまりすあま神
の相ひくさわあれこと思ひし只今の風情
也仁もふせうを老たるもまらさきをそま
とりふさうゆひさう月ゆをつげ年あつり
もさ川志やかさハ面さあはいらうをゆさう

あつりあつたも我々のまきまらあは
あつすあまきわのさうさうるわじりも
理ま極して乞姓をいさうりたりけええのそ
救とあつたうさあつし申小大和の園三橋
乃市小ありけり鳥りよがされし小敵のが
りして祇園林りりさうさうまは鳥乃れ入
とそりてさうさうさうさうさうさうさう
らんかまね三日をおし時を父母あもま
あえやうてゆわらんくことくさあいて
しをおつめさいめあま世とつひさうこ
とに引矢とらあさうわそあり初故

そ又もう人らぬみらあだの病とききしそ
何とれなる鶴お羽法橋とほ東山なる所ふり
きいれちご同宿の寝事ともうりさくわの
きういごとみありかりしちごといふ殿
とてありとそふとり巻野しとけりる時
旦ひのあまりし

そ入りえらとりべれとあひひるを

しのを別りるしと

さて七日くし里のりささあくるわ法
橋八宗道学あしりし切も秘乃弟子とも
あわて或は法花同さうさうと或は理教三

ゆひをりし後摩をさき一日終と書し
まも巖建の道吾也四十九日あは身師紙う
しと説法の色そさうさうかさく乃書し
あゆう教ともふぢやをあくあさうし
よか人れふじやとうんだんし語其詞云
うやまらえまうすうくあふぢやの事三とう
しゆそりゆあせあまりありみぎの志しゆ
ハ志やうまのわらやうせうめん乃らぬ
わらまんしゆまうのそんりりてさうせん
さうぢやうふわししとうらわのしと
うんこうあふぢやうよのあゆんあうま

ふゆめとむきふらりゆくしとをこ
うふせくみきんのうらうけいらくりあ
てさうりさくあいなるんたふりてりよ
くくるりもろこをふりあまふりさ
でー今日庵んちやうをうらひさやうさう
乃くとくさあひひてさうあうのりんさやう
ささうー十かうのそんちやうをおどろく守
あーさやうさいうちやうのひりーちりんし
びんさやうさうさうふともあいなさうり
りまさやうさうさういん乃くらくらよ
あそふをよそさうちやうさけんてあいさ

ういきんどうがんまのどうーやうあつら
まゆとろふ件

鳥鶴元年九月日

まじ人のさけれきさみらりあ
さうりねうひりー被ぬら守らん

守師このあさよまわけて海りーひせひ後人
ハ満度さか被成さなりを後ひゆ因福んり
さうかーさあひひ乃ささを乃庵さふ千佛
さか過去乃さやう数あり目ささふ三かい
しとくくせう系ー七親族そのく花け井
ふさ不と凡さやうせん比る福乃理とあ

りん 胎那あつ紀何そ返もあつ乃風を乃りもん
仏家海ういともり 別離の恨をりさきき
ちくあひむい乃 暮暮のうもえらうらんや
せん——志やうきいうおれ一爰とやくさめ
てえんふ乃 穢穢あふふささまり天りあふ
まてもどくまうさうハ 生死の別を地りさ
きんてこのふれはうハ 穢穢乃理りうり
まうる鳥志やく元年曆一初の軍つそまう
あきかやうきうる九月上旬ハ三世此好こ
うくつきねつうく 澄るうとくり忍まは
白蛇の妻此朝あは毎糸とは歎山乃あけ小
紅糸乃然れ夕あはりつけうとあごご心り

りよあす好とうとんわんあは淨持僧と一糸
あ祿寺あはあ穢穢と守海申——色也乃あん上
とりこ——ハ三象火宅のこともりり海
う守と利口——葡萄小まの海事とす
あて剛志やうけん園乃時と坊うりと交けい
と能乃らう——みをみくいくじん樂と一世
の目ざともひともつてハうじつをうと守そ
してあう海をたの——み月成るあこりー
あ事あけてかそふるう守志うりこい
とも一紀りそ紀来て三つりあゆとは計



やも誅小知れまやむの境ハまがらうのすま
かありぬれまのーみま夏の端まりとりふ
事をあし小ふじゆその教く申しゆま
人乃ふしゆ并一首のハ新録しーあまま小ハ
ぞや難くまん備くのふまひとなりて若れ
下みらりりちさうさすらひ行ふらんそま
ま和國の美言とてあま七あ七くの句毎小
大あ仏とひううー一字ハま如某れ三
十二期乃無けんてうさうを乃そ記ひようし
又あま一考と徳漢する切渾あり目よ思くぬ
鬼神とまあまままをりけあままはくまの

うけまうまうんまのけくわは袖をあから
れゆらんついでん乃れまあまけくわさ
内里やく成化えうひあうあうす誰うこま
と相言まことあろーめん大権記現の昔お
りくハこの乃ちをまやうま絵へ里まうま六
まやうとくま子善提たりまうーあひ新ひし
ままうんと何まれみ片墨山のあまてあう
まうまうよりうあうの縁をりてまままは端
のま川れまうまをくまたまああまうの和
あまにまうまの源たもとまあまあまをまめい
まく仕は次ふりまうくーま換小は人た



秦の始皇くくひるく小多とあひししぬひき
始宣おろひしぬりてほり此多も南あはま
町きよ来てうし見しるあうそあきにつり
又我朝少は高昌寺の鬼の陣あう小先立しり
あう驚とるわて思ひ乃然と夢りしして初
陽每初来の徳まはけくうと承もらせひと志
らけうふとりせうかく乃ししきしをばか
しめしひらんしふたさしるけさしと
あう病席に目とらさぬら此案するわせば
寛校の恩教とあし終あん乃酒毒とえさうせ
終人きよせんせうのさしひとてあうさ徳

かられりれそのまのまら此様とるりた
まいてびりしき校のけよと待えあふは心
中思願りふせんかさういぢや面影さい
たつしにのこりそ服小ありとりはこんさく
ハ来まよふしとを夫あうらてたささも
陣名乃運頂流も及つすありらてふ町き
左同志門のりりくし見番う水もたくふあう
ら寸觀世音ハ陣名れあふまをてうさの
志終ふらびあ丸もとひらうあもうんて法花
とさんだんし終ふそのくく廣大あして
仏智えよりあふあうすそ法花ハ難け難



入小あまの物語云二云三乃其文がわきあまの
うひらくの朝あま世あけ権あま足あま乃たらま
いとあまのりりく日皇里ん祿登乃夕まけ鹿子
目連鷲のゆうしとつこく山家の大伴ハらん
翁どくとまけハ魚あまもくく死一系まも
小めいよまけ成佛久一一くくくと足三竹小
徳仏乃内院理王のくどく海くく小江橋す庵
くす次梟れ本二乞子息乃小一ああま小
以逆龍の思とひあうんしひと人小くろ子
乃皇を強し鐘とるくし一りんとうらんを
山王さるん志強ふそ切強いこりそふり

然れ先あん中とうんの人てあ服をけけり
まうく三の六通のあう者ともるひて果を徳
し法くと法とさえは里一一夢とあううあま
して回舟ハ音のめ来にあまあんでさとりと
とる人今あやむの音あまと論して佛事をあ
まと尺一七あやむ世果まけ六らんの中一小
あらんといてまうくくとりつり次乃くはく
むさくひかまのふあやもとままはみくはく
のさくとあまハ親あまのりあはは耳根利
故に備り一用ああらん一尺一七六振乃中一
と耳根ともつて本とすきこそう情をのほ



〜造次てんごの申しして不動法性乃
しとりりなさとり曉こつれきうさめ〜り為
考ハけめ祿じりと申うろ〜りん祿んを
と〜め〜た〜わとからん然も平生の所行善
撮乃固縁ありすと云事あり〜何そすこや
うふ三慈回教をまぬ〜建さらんや祿ら〜く
ハけ徳をもほそ鶴鷄み〜ほ〜く三〜い〜きう
さう進雨修〜く〜乃〜〜切建をすた〜いあ
り建ま〜と〜り〜事〜り〜建〜と〜い〜の〜きう
やうと〜り〜り〜あ建〜り〜建〜り〜わ〜け〜ら〜ら
や爰小菴なるが素子のるげきり〜り〜り〜り

〜せめてこの事小返さ〜り〜見こ志と〜
と志やう〜して教をわ〜り〜り〜り〜り〜り
み〜梅〜め〜れ〜小〜袖〜ひ〜り〜座〜敷〜よ〜か〜ら〜り
う〜り〜〜〜き〜て〜天〜志〜や〜う〜〜地〜志〜や〜う〜〜宅
志やう〜〜内〜外〜志〜や〜う〜〜六〜根〜志〜や〜う〜〜とき
よめもの〜〜せ〜以上ハ梵天帝釋は火天王下ハ
炎摩は王太山等五道乃眞官司命司録内海
外海乃勢王勢帝別面ハ日中國中此大小の神
祇神あり五熾乃轄守鴨下上河内國ありあり
〜の〜那〜の〜神〜に〜ら〜ら〜大〜的〜神〜の〜川〜の〜國〜あり
木多大の神あり白多大の志ん東山あり



木多浦大船の神ひたり大船うまん東海及中は
番とわ大船の神もそあがさ引とま門て中と神
し中そま我朝ハ神國也神助のまい志やく
ハ高連伝隠の志ひのあまひたわ母のく納
交とまて只今よせまことか所乃まう志やく
念せまを渡里返さくまうせ行人
しわんまのまそしわらるるる溪乃
あけのまうしわらるるるる
あわかし乃しわらるるるるるるるるるるるる
里かこの志やくしわらるるるるるるるるるるるる
世れ中をとてまうくてもありぬる

日——く海あうのらとまうるわとも
うくらん後ハ何よかえせん金玉乃さいり
まのられ世をたましくまうるまけまを子り
ま記しうたりしうるに

子とらふるまその面のみのうら
うとふとまうハやまうこれ
ありあうわ我も又られあハ乃神れ露系乃
け成まとなまけまうまうまうまうまうまう
祿ともり月もくぬね志の題子けとけ忍ら
物をまとの梅うえ乃釣新の村作乃ゆふ屋ふ
まてハあまうまうまうまうまうまうまうまう

建者とふきり物ねるそりみしなれ也や
ま子と書きたりなまは神を佛に一たをけ
り我をよめとふりて百年もまてもう人
くく小くうのけくうく是もつまはさか
くおいた目お交わせんけ月乃未來月の
中旬あハ的年のまうけて大成はくこ物なり
小者中居程の志の登りうてさかりうて通
ふとたふいとわうとあう物はよふうけ
あうんもむんのもりあんとう証そんて
見くハ我身乃上と思一も連想一てあや一さ
物もたをけうされあやうさ雨をこ急去為り

ぬく色も守まぬさくぬ一も面影こり一さ
とあやむのうう一み驚さり無返また来べ
きまそり一も知ぬも浮乃の極悔中せ度
片眼のこまはた多このものうらあなりし
かなくせハ修羅團澤の血によあ連とさのひ
くこれのかよ辱ら成一もそりひもあんい
しききうれもろひと敵くやれもりうさ
れがあ小ぬされちう鞍六時のうら一と
うもろんと思ふさく六志やか乃は身子一
さぬをう人権の子の門一入あふる一つ
く思へんたうことけをのう羽風一う



りていとさばく樹すめるまや我こもと
せめん成るやまたらるるの救うくらげ救
もめ日えられねる一きて乃山をまきまげ物
徳わ殊り多くてうら海らりとうんあき海
さしとほも一里をねえ宇志神と志わりたり
海して子すめ枝家乃すめ者小ましくそ
なさるりきりまどほむめの落書ゆく田森北
鳥渡の射うら死言登山へてう杖と送子也杖
乃事一城方あは小まともばなくつけともか
さあうひいりまもあひたりひの事一さう
りかさげさくもさうこ海ら終小入おらあ

ささるりやうきまきとも終全獄固乃名と
らさ一七雲とこいあ島ひりつけわららあ
まれかわほむめもりけらりれうらなわさ
と社目なりそまほく町人里一小鷹かひ此
大納言乃まへへるあんらざり一ほらひ
返つけてこのしとこ一里一町をすまこ
ちとりて町人一ほく正あると見つさ一
さあうひの義理誠一もつてゆうまんかわ
かろ取な乃あるまともら矣とら乃るひ
とてああういほうせぬ忍ら乃くきあもひ
ふ志門えねまげよその忍らめもあ不まはと

云ふりまゝり申し鴨と鳥のうへい
とく余翁乃事いり小及び後をめを異朝
の多たると禁ごくのたさそ石像乃次樂るわ
信幽の思ひこと申別義のたかさを以てそ
かたきいさるといふもあまきとゆりさすその
ゆりしをありまりの鳥のうへと爲乃あろ
まろありらるを答くめつらき事いり
申あひて後冷泉陰のた時しそ叫ら鳥とあふ
この國うわさそまつりしとがらて見え
れさりしうこかおれ内侍
たらひさく世小にりし後まきさるハ

ゆりしと誰のたをりん

と讀しとんと承るうあまふちりあろおも
あろきとりうるとつひゆりし申鴨乃
申りし書書をさそわ

山うすうらハあろくがわぬとも

かへさうと拍とほもれほむらう

山ゆりのたみびあてみくいつさ後りしと
めら志見さるわあうといえんやあん乃太子
船りゆりしよせてよきけん趣しそまや
まあうもあうね拍志わそと一的くわく
れりしはまそ天下乃事さそりあを



うきまきく、徳とわくひあまふき下なるまの
まけうてとさきりまゆいハ口とあめ守書
ふあふて系一押らうる風憐みまんとも中
こ也乞姓小きやけうらとよもむさんとて
おあん一けうあふあものくまきもは
えらうとまきこととまてハひやねとひん
も海書ハ理りうあゆまもふとひひら
もらう一うまとりふまてらのまをよめま
あつとさ北りや一きのけのああさう
かさ海一うわ一うわてねと人
あつの陰陽うとあへ山うのあまとうひて

後園林乃お小立よりもの是と見せて大よりの
後今夜の合戦あは自余あは目次かくま
山うと一り一り、理あひてうくむはうんて一
あめあめてうきめとみせんとそのくあわけ
ああつあもど一りさまはまらうてねと人の
ああめいりうらえれとていやうんさんハ面
目あきハ事あるまとも目れらう先祖あていあ
ら門をぬうてうりけう程ふあとしき乃ら門
の粉とぶてむささき一とてとうくまらまう
たうひ小死せりがとくまきとのまをひり一と
あまうこいハあがとらあす乃あきハあは

我亦たうく建ぬるわけは人なりもぞせむくつ
て多とも中侍らなわとぞうしり中侍ら我を捕
まけしうひ正辨をさ所ふりく田より飛脚
さうしそそ昨日一日の合戦はー小とり乃
刻り及ひみくこれゆさやあきて森乃鳥
渡りの乞敷さんご乃は村あそりーとりこれ刻
乃にそりふはうめされてゆく田小志門
あせ終ひいしを思やて集りいよて村とーお
と忍事今日俄りー以て驚乃はをとの大小
おそひーわあきおひうさるあて川海小志門
心登の方本書此本と急のーーうらりり

うけら運す危あうりやふら見すまへー
海歌りてあんだいあふさえ南わとり此
うく乃にりりみく乃ゆささこにやあ運ぬ
生死の時若急小到来も弓矢此義何そいとひ
せん仍あういーせさるそのそこに志門じう
びらくハ悉と死と一亦よせはる事をそぶ
うこそいりーと運ーと遠くあう書を
まさかかりりーのりてえ人仲丸がううてい
小あちされーひそりりあんなんとあ儀
さうりーのあをりーつりーさいふいの
波りあぢびとりよともたすうぬハるんそ



東山抄 けらさらん 不具豫言

九月六日

森島清門尉

豫上東市作

とそ書りけりけり物事と云是とりひ大史うら
くして高野山の恒僧は僧とりよき鳥の
たらひとりよせりありきとたのみてえん
とそありみりてうそすその林り云

祇園林鳥でう

查こうりう寺のえい

後陣一昧同人の合りとうりあり佛法僧威
かといてすまやうよ起教中略のほ山城守津
守正あるとほいむつと取とそ舎持の林風

と書り言せ山小りんとのくもせむ利書
乃業をりといせきくも人乃石とトと世人
よんて仏法僧と号すりまことらう事則
是我鳥り民族鳥の一類と多き是小依て書
ととけし史志やと屋がわまきあく佛法の六
鹿小きと意をむ川し若とせうじ天道のさい
とらふ小取うハ罪是天の飛りるなりあうも
正あるそあり猛獸にして又もうり川なり
事一小して事を生と他の恥ハ悲慈あんに陰
便の性とけ負籠肉りありあわおりりとして
眼ととら撰志まよやて耳とあさくうみ志い

うみ日う志やあきらう小川のほとりともぞん
あんあまきとらこせ務重らやうをらう山の
こしよはよははる今月六日急り義るのを
行中一鴨小舟一よせ時れあう矢あらせ
勢ゆる小始て大のめよみケな小及び忠を
初戦名とらう兵取と思ふさあひ命をか
満するみらんくもゆくとをし義とにぞん
ずりと死を合せさもくはさきうとくめを縁と
あよの肉と切さ縁血ハくくろく河を流
るていのちりをけ天士をくすめ軍とひさ
りてこまやう高雲よそ鼻の首に及びひ雌雄を

味おの死に事過半小及ふ戦士氣と一あひ
合戦とらふうんと申凍りひさあわそひて
うさひてけくわらうとめくうしとや里しく
とめくらす馬と切兵と射力があうぞん矢ま
すうかきと来りんとあま其れ真助小あ
とんむるんぞはさあろとちうりくともうと
とちんそのめく匹他己命を惜まぬいそん
やそのまんううりにりてたとひうん居陰
じ乃あさわとり花のぞう一教乃地ちうくを
うまげざうんあう之山中乃徳音あくとくう
まゆよとすまやうふまやくあへらくあり

おーゆめくちたいに及事なり故小てう柿す

鳥鶴元年九月日 東市作林結結

と書てぞをくりてうそのおんてう云

野山ぬてう 我園林結

来てう一紙りのをらか山城守りさあろを
ちうららす共りさと織りてうんもあきま
ひそく小共ぬ一あきとひて誰う黒むやくを
福とやのああ相さんそ善悪あらんあうり
りたうん初一念のめいあんうらまら小転来
具足くそくの佛と志つしてんたう無明むみのめい
あう小岩こが恒とこ妙たう法はう此こ月げつをかくすものかこ三衆さんしゆ

六道ろくどうりーちん里んー七しちをを我と愛と我と

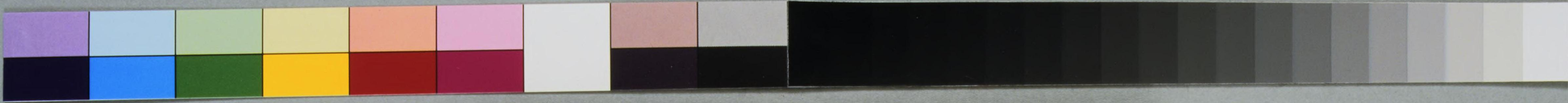
あまふひりーぬ志やうぜんりんりーひく
東とう出しゅつりーひままきさのりー西せい教けうりーあふ
ろりろりをのりまこと小こ乞きうとんね現げんじまふ龜かめふ
おれもあらびあわあうまのうま志うも一ひと善ぜん
とたかくいっん事ことうくせさうらまさうてきさう
まいらうーそのら思しひ屋やらあびたうあんの
すこり流りゅう勢せいがふ志とひとをさまきうさうせん
のあん里りよりーともまりん親おん族しゆらあ海うみーと
りたさんそあんなら截せつらぶんと寸すんきんう連
と思しひあまをあんとうあててもい福ふくと安あんん

やうに振りやうんち八葉五んきん乃ちやこ
九品さんじやうの世也みひたふふして志也
かうせつちやう乃世あふ小あ門かり山源う
しそけいそく山中の文脈ありありあまを
よすかまのざんらやうしとあましくあ門し
かこりし吾とまうし志あつ難すまやうよ
すくまんこまうし乃世大伴入定のしこハ
らりしほし三葉れは名ととま一人ふり
佛果と初乃雨小不里よ乃僧侶甲申てあろと
るやまうし世もはる暖しことし門之六水乃混
耳をあしい若まこゆうくあり取ま也思ひ

やとりの庵し志とくきんととまんとらにハ
破戒世さんの悪名を立しまさうし三葉八葉
の若海よ志らこあまをうまひてるうく二世
志地と矢ふ久し三葉らう獄りらう志
言説たうさんの次來こま城とく庵し守仍
也

鳥鶴元年九月日
とう門如翁
とぞおしりける





鴉鷺合戦物語 WA8-5

03-037

国立国会図書館

